



表紙の写真  
「猿 橋」

大井市猿橋町にある「猿橋」は、そそり立つ桂川の絶壁に架けられている。横脚を用いずに棟と桁を何段にも重ねて、両岸の崖からせり立たせて造られた橋である。その造りから、両防（山口櫛）の錦帯橋、木曾（長野県）の棟とともに日本の三奇橋といわれている。橋の長さ30.9メートル、橋の幅3.3メートル、水面から約30メートル。

猿橋架橋の説は定かではないが、「推古天皇の頃(600年頃)、吉須の志麻守がこの際に里り猿王が猿巣を伝わって断崖を渡るのを見て橋を造る」など諸説がある。

江戸時代に入り、五街道の制度が確立してからは甲州街道の要衝であり、御書請所工事(道幅工事)として9回の架け替えと10数回に及ぶ修理が行われている。

四季折々の風景と猿橋が織りなす絶景は、国の名勝地として指定されており、時折ともなると多くの観光客が訪れる。

(写真と文:浅川 翼)

【MUH】vol.11 1997.1.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・榎本友英・久保田圭一  
編集／株式会社ニュースメディア甲府

三浦弘・三井基男／名取秀浩・山川工三・高山  
ひとみ／赤井美佐穂／新海龍・新谷敏之

印刷／有限会社オスプリント

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した  
Mate(仲間)、Union(結束)、Harmony(調和)の頭文字  
からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

<b>フォーラム</b>	
テーマ カレンダー 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤真佐美	2
<b>特集</b>	
山梨21 上野 晴朗 氏(歴史家・作家)	4
ホスト 早野 澄 親と子の断絶が生んだ 信玄による信虎追放劇 長男を憎み 弟を溺愛 不仲な二つのタイプ 信虎は覇道 信玄は王道 戦国武将の生き方に学ぶ	
<b>トピック</b>	
目眩くネットワークの世界へ	10
<b>企業ウォッチング</b>	
株式会社藤二誠 小沢 誠 氏	13
<b>サークル訪問</b>	
甲州かるた凧保存会	14
<b>インフォメーション</b>	
甲府通運・早野組・トヨタビースタ山梨・トヨタホーム山梨	16
<b>ようこそ歴史</b>	
真下 晚菘 上野晴朗	18
<b>アートへのまなざし</b>	
ボクの美術品観察日記4 山本育夫	20
<b>トレンド</b>	
'97 流行りもの	22
<b>BOOK</b>	
こんなところに山梨… BOOKコーナー「近ごろ好きな言葉」	23
<b>リレーエッセイ</b>	
夜の街 依田利恵子	24
<b>ユーザ訪問</b>	
ヤマナシケンソーブルネス	26
<b>お茶探見</b>	
赤尾 博志さん(甲府市)	27
<b>ときのひと+FACE</b>	
少年サッカーチームのコーチを長年務める・広瀬 敬さん	29
<b>おしゃれ IWAMATSU / たべ物 北海道楽</b>	30
<b>お茶の間の民俗学(2)</b>	
一年中行事の習俗とその心— 志摩 阿木夫	31
<b>コラム</b>	
某月某日	32



## 「六曜」の秘密

江宮隆之

その昔、ニキビだらけの歌手が「ア、ラバラバラバ、キャレダガール」と、沢の分からぬ歌を唄っていた。小学生だったか、中学生になったばかりの頃だったか。すぐに自分もニキビ面になってしまった。その歌が坂本丸唱うところの「カレンダーガール」だと知った。もとはプレスリー（だったと思う）のヒット曲。

しかし、カレンダーといわれるとその「ア、ラバラバラバ」を思い出すと同時に、江戸時代の「暦」をイメージしてしまうのは一体どういう理由なのか。江戸時代というのは、いっぱい生きる知恵の詰まっている歴史現場であるからか。とはいえ、江戸の「暦」ほど、分かりにくく迷信に満ちたものはないのだから、何が生きる知恵か、とも思う。ま、反面教師という言葉もあるから、と自分に言い聞かせつつ「暦」のうちの「六曜」について。

「六曜」ほど、科学万能の現在でも「珍重」（としか言いようがない）されている迷信、俗信はない。ほら、カレンダーの数字の下なんかに書かれている「友引」とか「仏滅」とかいうアレ。

「六曜」は三国志で名高い諸葛孔明の創作といわれる、が本当は中国・唐時代に作られたもの。最初は「時刻占い」として流行したが鎌倉時代に日本に入ってきてから変化して、江戸時代には「日の吉凶を占う暦」に変わってしまった。初めは「大安・立運・則吉・赤口・小吉・虚妄」であったが、江戸末期に現在の「先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口」となった。そして明治政府によって一度は失われた「江戸暦」であったが、「六曜」のみは庶民の間で蘇り、特に戦後の昭和20年以降、人々の祝儀・不祝儀の行動を左右する地位にまで上昇ったのである。

ところで「六曜」の意味は、既に誰もが知っていることであるから記さないが、「仏滅」は「虚妄」から「空亡」になり、これは空ろで亡びることから、物みな滅びるとして「物滅」さらに「仏滅」と音によって変わったのだという。ともあれ吉田兼好は「徒然草」でいう。「吉凶は人によりて、日によらず」。反面教師とは「六曜」をも指す。今年も良いお年ありますように。

■1948年北海道生まれ 山梨日日新聞記者を経て現在も同社勤務 「経済記」で第13回歴史文学賞受賞 他に『涙でる』『白鳥の人』など 新刊「カネゴンの日だまり」(河出書房新社)

## 宇宙の化身とニラメック

古屋久昭

子どものころ、よく友だちとニラメックをした。勝ったり負けたりして、面白がったりしたものである。

大人になった今では、ニラメックなどしたら、おそらく私はすぐに吹き出してしまうに違いない。

ところで私には、いくらニラメックをしても、どうしても笑えないものが二つある。財布とカレンダーである。正しくいえば、財布の中身と、カレンダーの数字である。

財布の中身といえばすぐに察しがつくだろう。いっときあった紙幣が日ごとになくなっていく。ニラメックをしては悲嘆に暮れる。

そういう点では、カレンダーとのニラメックは、財布ほどの深刻さはない。「ああ、もうこんな日か」、「まだ日はあるな」、「そうか、今日は何々がある日なんだ」と、実にカレンダーの方は、私と優しくニラメックをしてくれる。

そんなカレンダーとニラメックをしていると、「古屋さんも大きさじゃん」と一蹴されてしまいそうだが、私にはカレンダーが、宇宙の化身に思えてくるのである。

茫洋として果てのない宇宙。時間なんていう実態もあるのかないのか。あったとしてもそれをどう把握すればよいのか。

しかし、そこに入智というものが入りこんで時間という概念を考え出した。すごい！

私はこのアイディアこそ、人類史上最大の発明と思っている。そのおかげで、一日や一年があり、カレンダーもあるというわけである。

ゆえに、カレンダーは宇宙の化身、と私は思っているのだ。だから、カレンダーの図柄も本当は、星座か、雲の一、二透が浮かんでいる空であったりする方がいい。その点からいえば、ヌードのカレンダーなんてとんでもないのである。

さあ、底廻な気持ちになって、宇宙の化身とニラメックをしよう。私たちを支配しているものは宇宙の真理であり、法則であるのだから。

■1943年北海道生まれ 日本現代詩人会会員 日本現代詩歌文学評論員 詩集に「落日探集」童謡集に「虫らしく、花らしく」その他エッセイ集等

## おじさんの思い出

岩崎正吾

カレンダーって、子どもの時はもうのが楽しかったね。もっとも初めは「暦」とか、「日めくり」とってやつだ。日めくりには思い出がある。家族がちゃぶ台を開いて朝食を取っている時、一家の長たる祖父がやおら立ち上がって一枚めくるんだ。ふーむ、本日は〇日か…何やら厳粛な気分になった。日めくりには近所の乾物屋とか、お茶屋の名前が印刷されていた。そのうち電気屋なんかが増えて、カレンダーなるものが登場した。一枚に十二か月が印刷してあって、1年がいっぺんに見渡せるんだ。すごいと思って、もらうと夢中になったね。

なぜかというと、これはたいていの人が覚えがあろうが、昔は振替休日などというものはなかった。だから、日曜と祭日が重なるものなら、1日休みを損してしまった。新しい年は、何日休日を損失するか、それを誰よりも早く確かめてみたかったんだ。

ゴールデン・ウィークの3日と5日の間に日曜が来ようものなら、その年は大当たりだ。万歳三唱をみんなでしたもんだよ。新しいカレンダーを調べて、翌日、学校へ行って友達に話すとスターの気分が味わえたね。誰もが、熱心に聞いたがる。11月3日は月曜で連休になるというと、みんなが拍手喝采をしてくれたよ。古来、暦を支配するのは権力者だったそうだが、その気持ちがよくわかったね。しかし、まあ、遠い昔のことだよ…。

最近は、カレンダーを見ると腹が立つ。年末になると、丸めた棒のようなものが続々と集まって来るんだ。狭い部屋の中で、ジャマになって仕方がない。捨ててしまえばいいのだが、ゴミの袋に入れるのも一苦労だ。豪華カラー印刷、最上のアート紙、成り金趣味がぶんぶんするようなやつばかりで、貧乏出版社としては紙資源のムダじゃないかと思ってしまう。

振替休日が出来て、子どもだってカレンダーに興味はあるまいし、そもそも、われらは休日だって休めたためしがない。ああ、と天を仰いで、嘆きたくなる。カレンダーの感動はどこに消えてしまったんだろうか…。

■1944年甲府市生まれ 小説家 長編歴史ミステリー『異端本庵寺・信長殺すべし』が講談社文庫として再刊 新しい信玄を描いた長編歴史エッセイ『武田信玄はどこから来たか—武田騎馬隊の謎を追う』(山梨ふるさと文庫刊)が話題を呼ぶ。

## 沈黙の食卓

佐藤真佐美

息子が中学生の頃の英語の教科書に、酸性雨で魚が死くなつたニューヨークの湖沼群のことが書かれていた。レーチェル・カーソンが『沈黙の春』で警告したのが1962年。その後ベトナムでのベラル坊の豚が、 Chernobyl の事故では6本脚の馬が生まれ、オゾン層の破壊で皮膚癌や白内障が増えていると聞く。

1945年にミシガン大学で、オランダニレ病防除のため構内の木に殺虫剤を撒いたところ、370羽ほどいたコマドリが4年後にはゼロになった。殺虫剤の付着した枯れ葉を食べたミミズ11匹で、コマドリ一羽を殺せる。死なないまでも不妊症になるそうな。最近読んだ中村方子著『ミミズのいる地球』(中公新書)の冒頭である。ミミズの多い土壤はよい作物が育つ。

猫の額ほどの畑でぼくは野菜を作っている。農協がくれる「病害虫防除暦」によると、たとえば「甲斐路」というブドウには発芽前(3月中旬)から収穫後(11月上旬)まで、十数種類の薬剤を計14回散布しなければならない。初めの頃ぼくは暦を参考にモロコシにバタンという農薬を散布し、その晩焼酎の水割りを飲んでいた最中に突然頭痛がてきて、バタンと倒れた。バタンの散布はサリンを探す時のよう完全防備でやらなければならないとか、消毒後のアルコールは厳禁であるなどを後で知った。

消毒をやめるとモロコシは茹でると虫がぱろぱろ。キャベツは青虫に食われて穴だらけ。丸ごと切って野菜炒めなどするとミミズがによろによろ。枝豆も食うところがない。食卓は大騒ぎ。

「うるさい。おいしいから虫が食うのだ。黙って食え！」

この一喝で食卓は沈黙。誰も食う人がいなくなってしまったのだ。農薬は安全ですよと新聞の片隅に載るけれど、コマドリはミミズを食って4年で姿を消した。暦は信頼するしかないが、安全といわれるわずかなppmが代々体内に蓄積され、千年後の子孫に伝わる時人類は不妊症かのベラル坊になってしまはしないか。なんて杞憂ならよいが……。「病害虫防除暦」を非難しているのではない。いろんなカレンダーがありますなあという話。はい。

■1939年北海道生まれ 日本児童文学者協会・日本児童文学協会会員 著書に『怪奇！大東京妖怪ゾーン』(ボブロ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットフのシルバー』(草薙社)など

武田三代に新たな視点  
歴史は現代を映す鏡  
いのちあるふるさと探訪

ゲスト

うえの はるお  
**上野 晴朗さん**  
歴史家・作家

ホスト

はやの きよし  
**早野潔**  
早野組社長



上野 晴朗氏

## ■上野 晴朗

1923年山梨市七日市場生まれ。司書学芸員として図書館・博物館に勤務。山梨県立図書館郷土資料室を経て県立図書館塩山分館長、司書係長などを歴任。1967年より学究著述生活に入る。その間に山梨県文化財審議会委員、山梨県自然環境保全審議会委員などを歴任。著書に「甲斐武田氏」「定本武田勝頼」「甲州風土記」「日本ワイン文化の源流」「やまなしの民謡」など多数。

親と子の断絶が生んだ  
信玄による信虎追放劇

早野 信虎と信玄父子を描くとき、これまでの多くの歴史書は、信玄を善に、信虎を悪と決めつけることで武田三代のドラマの幕を上げますね。そのほうが物語の構図としては都合もよいでしょう。また、山梨県民の多くも、それを自明なこととして承認済みです。

しかし、信虎は甲斐の府中・甲府を開いた武将ですよね。

上野 永正16年(1519)のことですね。その2年後の大永元年(1521)に信玄は石水寺、今の積翠寺の山城で誕生しました。信虎は、ちょうど駿河勢との戦のさなかでした。信虎も天下を望みはじめていた戦国の世に、信玄は産声を上げたことになります。

早野 先生のいくつかの著作などを読ませていただき、この信虎、信玄の父子観に目を開かれました。父・信虎は悪、子・信玄は善としたそれまでの認識をくつがえし、「親子の断絶」の姿として新たな解釈をされておられます。

これは、既存のテキストや、今までの諸説を鵜呑にしたいわゆる教条主義とは異なるもので、今日の親子関係や、家族のあり方を映す鏡になっています。実証に基づいた想像力があり、そこに作家がいると感じました。

長男を憎み、弟を溺愛  
不仲な二つのタイプ

上野 信玄は少年時代から孫子の兵法など、よく学問をいたしました。それだけに、税金をむやみに取り立てたり、武力で国を治めていた父・信虎とは折り合わないところが出てきます。

早野 信虎の生き方を霸道、信玄の生き方を王道と呼んでよいでしょうか。

上野 はい。「甲陽軍鑑」には、父子間のいろいろなエピソードが載っていて興味をひかれます。荒大将として名だたる父は、学問などして理屈ばかり言っている子が、どうも鼻もちららず、可憐げがないと思っていたようです。

元服にあたって、子は、父の秘蔵の鹿毛の馬を欲しいとねだりますが、

言下につっぱねられたといいます。初陣は海ノ口への攻城でしたが、父の諭めた戒を子が勝利へと導き、功績を示すのですが、この時も父は、本来なら褒めるべきところを、「この出過ぎ者めが…」と怒鳴りつけたといいます。

早野 これは、いよいよ困った事態ですねえ。現代でも、よく見たり

聞いたりする父子関係です。

上野 父は、あからさまに長男を嫌い、弟を溺愛し、とうとう長男には家督を譲らないと公言するようになっていきます。

信虎は霸道、信玄は王道  
戦国武将の生き方に学ぶ

早野 やがては、父が子によって



早野 潔

追放されることになっていく要因は、根深いところにあったのですね。

**上野** 時代背景もあります。信虎の圧政のため、領民は苦しんでいましたし、何事も武力によって解決しようという武断政治に、家臣団も危機感を抱くようになっていました。

そして、女婿である駿河の今川義元のもとへ赴かせ、隠居という名の追放計画が実行されます。

しかし、大切なのは、死に追いやったのでもなく、騒動のないようにと、信玄が上手な演出に心を砕いている点です。

**早野** 憎しみながらも、配慮がありますね。いい知れぬ父と子の悲哀と、情愛がありますね。

**上野** 離れていても、子は父のために、過分な隠居手当てを送り続けました。

**早野** 先生はこれまで数多くの本をお書きになっていますが、この信玄・信虎父子の描き方が代表するように、人間の生き方として歴史を捉えているところが独特であり、魅力です。

今日を生きる私たちへの示唆にも満ちていますね。



### 戦争体験で養った目 真実への旺盛な探求心

**早野** 先生には、MUHの創刊号から「ようこそ歴史」に連載をいただいている。歴史を今日に迎え、明日に生きる英知としたいというのが企画テーマです。

毎号新しい発見の連続ですが、そもそも歴史に関心を寄せられたのは

いつのことですか。

**上野** 子供の頃から作家志望でした。農家でしたが、文学全集や子供向けの本にも恵まれていて、昭和初期ですが、家では一坪図書館のようなこともしておりました。

また、私たちの世代は、おのずと戦争体験によって、その後の人生を決定づけられているところがあります。



**早野** 戦時中はどちらにおいてでしたか。

**上野** 北海道の帯広に北方軍の航空基地がありまして、そこで航空通信兵として教育を受け、終戦を迎えました。

**早野** 特殊教育ですね。暗号解読などもおやりになったのでしょうか。その体験が、どのように歴史へと目覚めさせていったのでしょうか。

**上野** 当時アメリカが、日本に向かって超短波で送ってくる放送がありました。これは普通のラジオでは聞けませんで、無線機です。もちろん日本の放送もあるわけで、この双方を開いて戦況を判断していました。もっともアメリカの放送はテーマであるから信じてはいけないと、周囲からは言い聞かされていました。

戦争が終盤を迎えたとき、この二

つの報道にはずいぶんと落差があることに気づきました。日本の報道は上から下へと命令していくという語り口です。アメリカはといえば、デモクラシーが徹底しているせいでしょうか、個人に向かって語りかけてくるような報道です。

**早野** 二つの報道を比較して聞いていれば、おのずと報道の真実ということについて考えないわけにはいきませんね。客観性や、批評精神も養われますね。

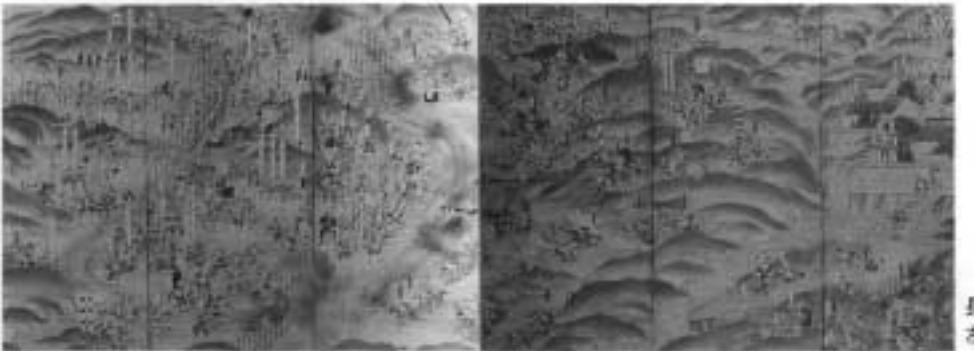
**上野** 戦後文筆活動をはじめはあたっての態度というものは、戦争体験によって確立されたかも知れません。

### 戦後は史跡発掘から 人生を決めた「宝もの」

**早野** そして終戦となり、ふるさとの山梨市の旧日下部にお帰りになられたのですね。

**上野** 史跡発掘が、私の戦後のはじまりでした。旧日下部には、七彦神社という、国歌「君が代」の源流を担う村社がありました。

しかし、周辺は食糧難から開墾が進められ、史跡は急速に失われつつ



長篠合戦図屏風（徳川美術館蔵）  
左が織田・徳川軍、右側に武田軍が描かれている

ありました。私は開墾のブルドーザーをさえぎって、発掘調査に明け暮れました。

23歳でした。私は戦争体験から、日本の国の原点の歴史を調べたいと考えたのです。この仕事は、今日にいたってまだ継続中であり、やっと近々出版の予定となりました。

**早野** 戦争体験と青春の問い合わせに、いまも、きちんと向かい合っておられるわけですね。

**上野** それから、当時おこりました民主制度確立のための公民館建設運動を始めました。「公民館」という物語を書き、新劇で演じてもらったのです。

ところが、台本を書いて舞台化した後、突然、甲府のGHQから呼出状がきました。対日占領政策を実施するための管理機関です。日本人にとっては恐い存在で、不安でいっぱいでした。

**早野** 県庁の南別館でしたね。アメリカの国旗がたっていましたね。

**上野** 受付に行くと女性の通訳について、そして部屋に案内されました。机の上には、私の書いた台本と、英文タイプで打たれた翻訳がのって

いました。すると大佐が入ってきて、いきなり握手を求めてきました。「君の物語を読んだが大変面白かった」と感動してくれました。大佐はアメリカの作家・スタインベックと比較して評価してくれ、さらに、NHKラジオドラマで放送するよう、夜8時の番組を提供してくれました。忘れもしません、テーラー大佐という方でした。

**早野** 無線で聞いたアメリカ放送の声と同じ響きを、きっとそのとき感じられたことだと思います。

青春時代にひとつの感動をもっている人は、強いですね。困難な道を突き進むことができますね。大佐との出会いは、宝だと思います。

**上野** 物書きとしての勇気を与えられました。

**早野** それから先生は山梨では初めての司書学芸員として、図書館の郷土資料室の開設に尽力され、さらに、博物館構想に情熱を傾けられました。

**上野** 当時、天野久知事の時代でして、知事は毎朝6時ぐらいにビーナスをつまみながらくつろがれる習慣があると聞きました。その時間に合

わせ、博物館構想の陳情にいったことがあります。

その時の知事の言葉をよく覚えています。「ほんたってもなあ、おまんとう、そんな理想的なことをいっても、今は食うことが先だよ」といわれ「今に食えるようになったら、でっかいもんを造ってやるよ」と言われてしまいました。

思えば、食えない時代に夢見た博物館が、いま、山梨でも実現されるようになりました。

**早野** 感慨深いでしょうね。

### 歴史の虚実にせまる 長篠の合戦と武田軍

**早野** 今日は歴史の楽しさをいろいろとお聞かせいただきましたが、歴史はすでに終了しているという見方があるせいか、漫然と受け止めてきたところがあります。しかし、先生はいつも疑問を正し、実証的であることを求め、ご自身の足で確かめ、歴史の再発見に努めいらっしゃいます。

**上野** 大学の研究室に閉じこもっていても、歴史はできると信じている人が多いですね。膨大な専門書や

研究論文を突き合わせていけば、歴史学は生まれてしまうところがありますから。

**早野** たとえば、あの有名な「長篠合戦図屏風」を眺めれば、目に見える形式で、しかもリアルに描いてあるだけに、それで長篠の合戦を理解し、了解してしまいます。

しかし、そこから真実を探ろうとすれば、新しい歴史観が生まれていくわけですね。

**上野** あの合戦は、信長が近代兵器である鉄砲を大量に利用して、頭脳的戦略によって武田軍を滅ぼしたというのが一般的です。

しかし、古戦場を歩いてみれば、あんな狭い地形で何万もの軍勢が布陣し、屏風絵に描いてあるような3千挺もの鉄砲を、しかも、三段構えの鉄砲隊が整然と操作したとはとうてい信じられません。

当時の鉄砲の仕組みや、火薬の性能からして、不発弾はかなり多かったです。これを三段構えの鉄砲隊のひしめくなからやったら、信長の陣営は大混乱を起こしたことでしょう。

また、武田軍の騎馬隊は鉄砲隊に

向かって勇ましく突っ込んだといわれますが、おめおめと撃たれるために知恵や経験のある武田軍が突入することはあり得ません。また、いくら主人がけしかけたところで、当の馬が、ものものしい鉄砲の音と、火薬の煙とのなかに駆け込んでいくでしょうか。

もとより絵屏風は、広告宣伝のために描かれることも多かったです。

**早野** しかし、武田軍は、信長隊に挑んで、ついに破れ果てます。

**上野** そこなんですね。そこに歴史の秘密が潜んでいます。

### 歴史の劇の奥を知る 今日の社会に生かす知恵

**上野** 長篠の合戦は、信玄の3年喪明けを迎えたばかりでした。また、新国主・勝頼のもと、武田軍は指揮が一貫していませんでした。

そこで、本来守りに徹することが兵法の奥義と心得ていた名だたる老将、士隊長たちが、新国主・勝頼に仕える心の葛藤に悩み抜き、結局、信玄を慕って、自殺行為と知りつつ、敵陣に突っ込んでいったのです。

ここにも、戦国武将の格をみるこ

とができます。

**早野** 信玄は、慕われた人物だったのです。

信虎、信玄の父子関係をとおして、信虎の生き方を羨慕、信玄の生き方を王道と、二つのタイプに分けてその人物像にせまりましたが、信玄の王道を、この長篠の合戦は、ふたたび象徴するわけですね。

**上野** 信長は、武断政治により、やがて戦国の世を上りつますが、最後は、結局、部下に裏切られて自滅してしまいます。

信長の生き方は、信虎の生き方同様、羨慕でした。王道に生きた信玄と比較してみると、どちらが人物であったかは、言うに及びません。

**早野** 信玄とその軍團には、共通の哲学が、理解が、共感があったのです。

歴史に、劇だけを見ていたのではありませんね。人間の複雑な心の内にも踏み込みませんとね。歴史は、やはり現代を映す鏡ですね。

今年も、先生の、MUH連載「ようこそ歴史」を、読者とともに楽しみにしています。

[構成：三神 弘]



Welcome to  
INTERNET

## 目眩くネットワークの世界へ

ムーのトピックスを担当して幾年月。経済、社会、文化などを拙文でご紹介してきた訳だが、今回に関してはすでに無条件降伏だ。俗にOAシンドローム（特にコンピュータ）の小生としては、ハッキリ言って「負け！」である。この想いに多分、拍手喝采をもって同意してもらえる読者諸兄（特に中高年の方々）も多いはずである。

インターネットはコンピュータ通信のネットワークの事。元をただせば米国防総省の高等研究所というところが始めたという。現在、ユーザーは2000万人とも3000万人とも言われており、個人、企業、学校、自治体などが、ホームページと言われる画面上のスペースの中で、企業PRや観光案内、個人の意見や情報、果ては全世界をも対象にした通信販売、求人なんかをしている。コンピュータだけでも90か国4000万台が参加しているというから凄い。

「ほんじゃどうすれば見れるんかい」という意見はごもっとも。

- ①コンピュータ
- ②モデム

③インターネット接続のソフト WWW（ワールドワイドウェブ）のブラウザ

④プロバイダーの選択

が取り敢えず必要という事になる。それでは全くの素人が簡単に説明しよう。

①は、コンピュータ同士の複合的な組織体がインターネットというわけで、当然コンピュータが必要だ。

②はコンピュータ間の情報のやりとりは電話回線を使用するので、その変換器がモデム。電話の伝達信号はアナログなので、コンピュータ信号のデジタルに変換するのがそれ。

③は、ワールドワイドウェブというインターネット上のサービスを言う。HTMLというコンピュータ言語を使用して、HTTPという通信手順によってコンピュータ上に、いろいろな情報（ホームページ）を載せているのがこのWWW。インターネッターブームはこのWWWという情報サービスが見られることが起因。続くブラウザというのがインターネットを閲覧するための専用ソフトウェアの商品名。WWWだけなら例えれば

インターネットを見るブラウザを買いたい」と言えばおおよそ大丈夫だろう。ネットスケープ、インターネットエクスプローラと言われるソフトがメジャーのようだ。

最後の④のプロバイダーとは、インターネット上に個人のコンピュータを接続するオプション（権利）を代行する業者のこと。日本におけるインターネットはその殆どがプロバイダーを中心して接続している。会社だけで200社を越えるという。このプロバイダーに、初期費用（入会金）のようなものを払い込んで、接続してもらうことになる。電話回線を使用するので、接続後稼動している時は料金については従量制といつて使用時間料金を徴収されるケースもある。

ただし現在は、基本料金を払えばおおよそWWWのホームページは無料というところが殆どだ。基本料金についてはプロバイダーによってマチマチで、月1000円のところから数万円までいろいろ。



ハードとアクセスする方法はともかくとして、それでは実際のイン

ターネットはどうなっているのか。

<http://www.AAAAA.com>

このような記号の群れをこの頃よく見るとと思う。これがインターネットのアドレス。この指定されたアドレスにアクセスするとwwwのホームページが閲覧できる。httpはコンピュータのプロトコル（手順）で、wwwはホームページが閲覧できるサービスの名称。AAAAAはアクセスする企業名や商品名、開局しているインターネット上のコードネームということになる。早野グループであれば、さしつめ—

<http://www.Hayanogroup.com>

というところか。

このアドレスを持ってサービスを提供する企業や個人を「サービスをする」という意味でサーバーと言う。ちなみに、このアドレスのことをURLといい、いってみればホームページの住所。

### ビジネスとしての インターネット

現在のインターネットの状況は、



インターネットにアクセスできる商品もつぎつぎに…

従来の通信販売や観光、求人、イベント案内などのほか、ビジュアル系の3Dやサウンドの再生など非常に汎用性が広くなっている。しかし、何と言っても各企業がイメージ戦略を兼ねたPRが主体だ。wwwに掲載されているウェブ広告の出稿本数は、2000年には50億円とも70億円とも言われる市場規模をもっている。ビジネスサイバーといわれるインターネットサービス市場では、コンピュータ関連の商品だけではなく、CD、書籍などの販売も活発だ。

「もう終わった」とか「通信販売で購入しても送料がかかりすぎて」とか「全然アクセスできない」といった議論もチラホラ見られてきているが、一過性のブームで終わってしまうという考え方も早計か。ただし、プロバイダーを通じた個人レベルでは、マニアックなインターネットフェスの登場で、ホームページからホームページを渡り歩くだけが目的

のネットサーファーと呼ばれる人々の登場や、アメリカでも規制された、いわゆるアダルト物のみの需要であり、そのコンピュータ画面という特性とマニアックな人々だけが群れているのではないかという概念から、巷間、「言われている程、おもしろくない」という食傷気味の意見が大勢を占めていることは否めないだろう。

しかし、最後の市場と言われている通り、データベース通信の分野としてのインターネットに企業が興味を示していることは事実。今冬から各家電メーカーがテレビのディスプレイ上でインターネットにアクセスできる商品をこぞって発売するし、文部省ではミュージックシーンを席巻している大物プロデューサーと提携して、子供向けのインターネットを開発するという。

興味はあるけど、ちょっとという人、気軽にアクセスしてみては如何。  
〔文：新谷敏之〕



「身延山病院新病棟」施工場所 南巨摩郡身延町梅平 施工 早野組・井尻工業 共同企業体

「風邪ですね、あつたかくして休んでいれば治りますよ。」  
 おだやかな医者の口調にホッとする。  
 身近に良い病院があるのはやはり心強い。  
 町民、医者、看護婦、信頼の絆で結ばれる病院、  
 現代医学の粹を結集した新病棟の完成、「なんだかうれしい気分になる。」



# 甲州かるた凧保存会

伝統ある甲州かるた凧を復活  
子ども達に伝えたい 凧揚げの醍醐味

凧揚げに独楽回し、羽根つき、かるた、福笑い。いずれも日本の正月の伝統的な遊びだ。でも、この正月、あなたの周りでこれらの遊びをしている子供はいるだろうか？TVゲームに興じ、マンガ本を読みふけり、レンタルビデオを見まくっている、なんてことをしているのではないだろうか。昔の遊びが良くて、今の遊びが悪いなどと、ヤボなことを言うつもりはないが、どことなく淋しい。親戚一同が集まり、大人も子供も大勢でワイワイガヤガヤ正月の遊びをしていた時代は、そう大昔のことでもない。

今回は正月号にふさわしく、凧の話。甲西町江原地区の人たちが、昔から峠西地域に伝わっていた「甲州かるた凧」を復活させ、保存会を作って伝承している。

## 伝統ある甲州かるた凧を子ども達に伝えたい 経験を生かして 色鮮やかな凧を自由自在に操る

「20年くらい前に発足しました。ちょうど外国から入ってきた“ゲリラカイト”がはやっていて、和凧は肩身の狭い思いをしていましたね（笑）。昔から伝わっている凧を、日本凧のよさを子ども達に残していくたいと思い、町の保存会を作ったんです」と話すのは、甲州かるた凧保存会会員顧問の山本武夫さん。メンバーは13人。会社員や大工さん、公務員などさまざまな職業の人達が集っている。年齢は全員50歳以上。「昔、発足当時子どもに作ってあげていた年頃だから。それより何より、とにかく凧が好きという連中の集まりです」と山本さんは楽しそうに話す。



「失敗もありますが、凧作りはやめられない」と山本顧問

甲州かるた凧の特徴は、“しっぽ”がないこと。絵柄も武田信玄や役者絵が多く色鮮やかなことから「正月のかるたが空に浮いているようだ」と、かるた凧の名が付いた。しっぽがないと、凧がくるくる回ってしまう率が高くなる。その上、甲州かるた凧は肉厚の竹ひごを五~七本組むため非常に重い。しっぽがなくて重い凧をバランスよく揚げるには、至難の技だ。「もちろん数多くの凧を壊してきましたよ（笑）。失敗して、いろいろ経験してはじめてうまく揚がるんです」と山本さん。手漉き和紙1枚分の小さなものから、疊三疊分にもなる巨大なものまで、凧の大きさもいろいろある。それぞれの凧の大きさに合わせて揚げていくのは、まさに経験のなせる技だ。



思い思いに凧を描く「凧作り教室」



## 和紙と竹ひごだけで大空に揚がる醍醐味 大凧に乗ってゆったりと地上を眺めるのが夢

保存会の主な活動は、毎年春に甲西町で行われる甲州凧揚げ大会の開催や、市町村教委などが開く凧作り教室の講師を勤めたりすること。

凧作り教室では、しっぽのない甲州かるた凧は揚げるのが難しいので、しっぽを付ける普通の和凧を指導している。この日も、山梨市の笛吹川フルーツ公園で凧作り教室が開かれていた。凧を作る機会などなかなかない子ども達は、アニメやマンガのキャラクター、干支の動物など自分の好きな絵を凧に描いて大喜び。思い思いの色を塗って、慣れない手つきで竹ひごをつけ、目を輝かせて一生懸命に作っている。山本さんは「自分の手で作った凧が、大空に高々と揚がる喜びを感じてもらいたいですね」と、無心に凧を作っている子ども達を見ながら、嬉しそうに話す。

「和紙も竹ひごも、凧を作っているものは全部自然のものでしょ。その自然のものだけを使って作った凧が、100メートル~500メートルも揚がるわけだから、こりゃ面白いですよ。ここに凧を揚げる醍醐味があるんですよ」と山本さんは凧の魅力を語る。発足当初は、「いい大人が河原で凧揚げなんかして、ずいぶん暇なもんだ」などと陰口を聞かれたこともあった。しかし、メンバーの

熱意と地道な努力により、最近では「凧の町 甲西町」のイメージが定着しつつある。

日本凧の会会員でもある山本さん。平成4年に石川県で開かれた“世界の凧の祭典”の凧揚げ大会で優勝した経験も持つ。「夢ですけどね。凧に乗って大空をゆらゆら舞ってみたいですね。もちろん、気象のプロなどと協力し合わないとなりませんが、豈何十疊もの凧が揚がっているんだから無理じゃないと思うんですよ。大空に揚がってみて、凧が上から眺めている風景を見てみたいですね」と夢を語る山本さん。

正月本番。保存会のメンバー達も、孫と一緒に釜無川の河川敷で、「今年もよい年になりますように」と自慢の甲州かるた凧を揚げていることだろう。

[文：赤井美佐雄]

### ◆甲州かるた凧保存会◆

峠西地区に古くから伝わる“甲州かるた凧”を復活させようと、20年前に発足。広くPR活動を行っている。メンバーは13人。毎年春に甲西町で行われる甲州凧揚げ大会をメインイベントに、県内の各市町村に凧作り教室の講師として出向いている。年末の風物詩として、新聞やテレビなどで取り上げられ、「凧の町 甲西町」のイメージが定着しつつある。

連絡先：山本武夫

〒400-04 中巨摩郡甲西町江原1428

TEL 0552-82-3723

## 早野グループ4社から 一番ホットな情報を届けします

### 法令違反に対する点数制度 行政処分等の基準の改正など

貨物自動車運送事業法の施行後6年経過を契機に、各種制度等の総括的な見直しが行われています。その一環として、貨物自動車運送業者の法令違反に対する点数制度、行政処分等の基準の改正と、運行管理者資格者証の返納命令発令基準の創設等が、平成8年11月1日付で改正となりました。

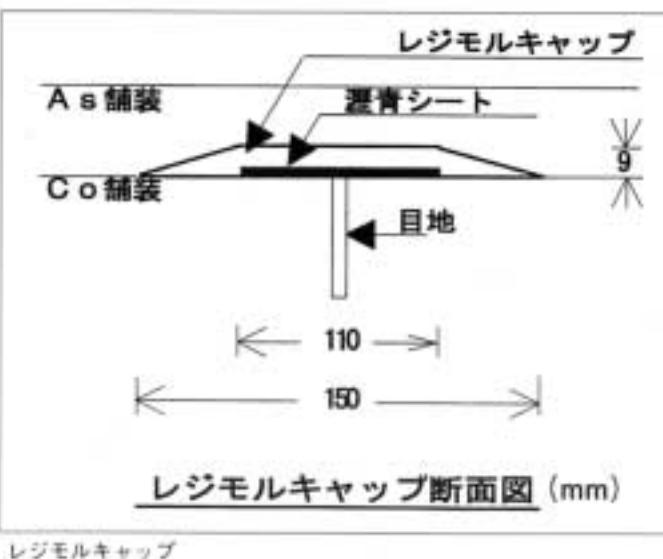
#### 改正等のポイント

- ①「処分等の基準」の見直し…150項目のうち80項目について引き上げ、新たに12項目を追加
- ②「過積載違反」の基準の引き上げ…初違反についても車両停止処分として、再違反等については車両停止の期間を大幅に伸長  
その結果、
  - ・10割超の過積載を3年間で4回行った場合は事業の取消処分
  - ・5割以上10割未満を3年間で4回行った場合は事業の停止処分
  - ・5割未満を3年間で4回行った場合は陸運支局等の指導及び定期報告
- ③運行管理者資格者証の返納命令基準の創設…新たに全国統一基準を制定し、発令基準を強化  
貨物自動車運送事業者への周知期間等を考慮し、実施期間については平成9年4月1日からとなっています。

**甲府通運**  
本社：中巨摩郡田富町流通園地3329-1 0552-73-0611

### レジモルキャップで特許取得

平成5年に当社舗装部の水上至永主査が申請しました「舗装構造並びに舗装用板状部材及び舗装工法」が平成8年8月8日付けにて早野組として初めての特許を取得することができました。この工法は、既設コンクリート舗装の上にアスファルト混合物でオーバーレーすると、通常1~2年で既設コンクリートの目地部等の真上に発生するクラック（ひび割れ）を防止するものです。このクラック防止のために設置する樹脂モルタルを当社では「レジモルキャップ」と命名し、商標登録の申請もしております。



**早野組**  
本社：甲府市東光寺1-4-10 0552-35-1111

### トヨタ自動車では、トヨタTECS福祉車両シリーズでハイエースウェルキャブを発売しています

**その1 サイドリフトアップシート車（シートリクライニング・スライド・回転対面シート採用）**

お年寄りや足の不自由な方などの乗り降りに思いやり、シートに座ったままスムーズな乗降ができます。

**その2 車いす仕様車**

全自動スライドリフトをはじめとする多彩な装備が、車いすの方、寝たきりの方の移動をお手伝いします。

乗り降りのしやすさ、ドライブ時の快適さを高めるとともに、介護の方の負担も少なくしました。レバーロック式車イス固定装置により、車イスの固定もしやすいウェルキャブです。



**トヨタビスタ山梨**  
本社：甲府市朝氣3丁目10-21 0552-32-5511

### メレーゼ・プレミア新発売

昨年の10月に発売された「メレーゼ・プレミア」は、これから時代を見つめた、家族の喜びを満たす新しい住まいです。住宅金融公庫が定めた次の3要素が満たされ、述べ床面積が175m<sup>2</sup>以下であれば、最も低い基準金利で公庫融資が受けられます。

- ①省エネルギー対応型住宅
- ②高齢者に配慮したバリアフリー住宅
- ③耐久性に優れた住宅

このメレーゼ・プレミアは、高い断熱効果を持ったペアガラスや省エネルギー基準をクリアした優れた断熱材などで冷暖房費を節約する省エネルギー住宅といえます。

玄関ドアにはリモコンで施錠・開錠が出来るリモコンキー、キッチンには生ゴミ処理機、ボタン一つで洗浄、すぎ、乾燥が出来る全自動食器洗機、ビルトイン浄水機と、快適な暮らしを実現できます。また段差を低く設定した玄関ホール、トイレや階段、玄関の握りやすい位置に設置した手摺り、和室と廊下の段差をなくした床、緩やかな傾斜と、十分な幅を持たせた階段など、お年寄りだけでなく家族皆様が安心して暮らすことができます。

構造的にも、地震や台風に強い鉄骨ラーメン構造、2重配筋構造の強固な布基礎、柱となる鉄骨もカチオン電着塗装で防錆性能が高いなど耐久性抜群の住宅です。

見て、触れて十分納得のいく住まい、「メレーゼ・プレミア」。詳しくは下記までご連絡下さい。

**トヨタホーム山梨**  
本社：中巨摩郡昭和町西1043 0552-75-1234

江戸後期 農家の出身でありながら  
江戸に出て 士分を買ひ  
ついには大名格の陸軍奉公並支配にまでなった希有の人物

# 真下 晩菘

(ましもばんそう)

## 上野 晴朗

うえの はるお

1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室を  
経て67年から文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」等多数

士農工商制度の本格的な崩壊が始まった江戸時代後期、農民でも金と勉学の力さえあれば、武士のはしくれにまでなれる時代が到来していた。その手順としては、まず若党・足軽・中間・手代などの職にありつき、あとは空席が生まれたら、武士の身分を買うわけである。

甲斐の国でその先鞭をつけたのは、山梨郡中萩原村（現塩山市）の益田藤助がなんといっても有名である。藤助は寛政11年（1799）中萩原村の農家に生まれた。この村は大菩薩山麓の西側に位置する寒村である。父は仙右衛門といい、大変な働き者で石高20石位をもち、ついには質屋まで経営するまでになっていた。

けれども村の中での身分はあくまで低かったから、村の寄合いなどがあると、その席次は下の方で何時も親の代から末席に座らされていた。上の身分の名主・長百姓階級は「藤助…藤助…」とわざと見下し、使い走りにこき使ったり、草履取りを扱うように、ワラジの紐を結ばせるなどの意地の悪い仕打ちを見せ付けたという。それが生来利発な藤助を奮起させたのだと見える。

少年時代に入ると、村内の正念寺の諸職和尚と、法正寺の養善是證和尚に勉学するようになり、ついには漢学、日本の心学などまで学ぶようになった。同窓に桶口一葉の祖父八左衛門などがいる。



真下尊之丞(晩菘) 晩年の肖像画

藤助の学問好きは村でも評判だったようで、また親に似て勤勉家でもあり、山から薪を伐り出していくと、それを馬につけて甲府まで売りに行き、帰りには本を買ってきていたという。また18~19歳になると、学問のほかに武芸までも学ぼうとしてい

るから、おそらくそのころ武士たらんとしたのであろう。

ただ村人は藤助のそんな志が判らないから、村人の伝えでは武術を学んで腕っしが強く、豪放で親分肌のところがあったので、誰言うともなく、「いまに藤助やんは博打うちの大親分になるだろう」と尊らの下馬評だったという。

一方藤助の両親は彼が学問に熱中して、家をかえり見なくなるのを心配していた。そのため藤助は20代に入ると、両親のすすめで妻を迎えることになった。隣村の上栗生野のふじという娘だった。

こうして一応藤助は家業に励むようになつたけれども、文政5年（1822）、突然母が亡くなり、さらにその5年後には父が病死してしまい、藤助は一家の主人となつてよいよ責任が重くなった。

そのころになると藤助の世間を見る眼は教養が深まり、村の会合での発言でも一頭地ぬきんでていたから、村役人らはいよいよ面目なく、わざと「藤助…藤助…」と見下して、ワラジの紐まで結ばせる行為に出たから、藤助はもはやそんな村の組織の



日本に来た黒船を描く瓦版

桶口一葉の父大吉(のちの則義)  
蕃書調所の真下をたより そこの小使となる御園安政図 左側に品川御台場が描かれている  
真下尊之丞はこの御台場建築の責任者だった

中で因循と甘んじている男ではなくなっていたから、「よし、故郷はもはやこれまで、江戸に出て一旗上げてやろう」と決断して、文政年間の末飄然と故郷を出奔していったのである。

それも村人の下馬評の博徒のワラジを穿いたのではなく、小原氏という旗本の武家屋敷の奉公人になったところに、彼の行動の青雲の志が仄かに見える。しかもそのとき藤助改め、平馬新作と名乗り、自分を馬の身分に見立てたところなど、なんとも心ににくい。これは最晩年徳川幕府が崩壊して野に下ったとき、晩菘と号した気持にも共通していた。暮とは平たくいえば菜々葉のこと。春の七草のうちでも一番頼りにならない青葉をもじったものだった。

それはともかく、小原氏の奉公人になった藤助こと平馬新作は、たちまちその才を主人から認められて代官手代となり、とうとう故郷へ縁のように、石和代官所詰の手代にまで出世して戻ってきた。けれどもそのときは恰好は武士でも、まだ後ろ指をさされるいわゆる三一侍であった。

ところがその後着々と資金をたくさん、努力を続けて、とうとう天保

7年（1836）に幕臣真下氏の家禄を買うことができ、念願の土分を獲得することができた。そのため今度また正式に改名して真下尊之丞となり、江戸西丸表御台所人を仰せつけられるまでに出世した。このとき尊之丞38歳であった。

まさに克苦勉励型の典型といえた。それも甲州の歴史の、あの天保騒動の裏側で農村の下積みから立ち上がっている点、支配体制の矛盾をこきみよく突いた出世話といえよう。その後の出世コースもまた、驚くほど目覚ましいものがあった。天保12年（1841）7月には支配勘定出役に抜擢され、同役勤務中に金山奉行として甲州の保金山（早川町）に出張を命ぜられ、帰るとすぐ作事方書役出役となり、今度はあの品川御台場の緊急建設工事に従事したりした。その後今度は安政2年（1855）に九段坂下に誕生した洋学所に転勤している。この役所はすぐ蕃書調所に名称変更しているが、その仕事は急に浮上してきた諸外国との和親、開國のための布石の一つで、尊之丞は文久2年（1862）にはその外務省のような役目の蕃書調所の組頭にまで出世していった。

その後この役所は神田一橋に移転、洋書調所と変更して、さらに開成所へと移り変わった。それもこれも御一新（明治維新）の激しい胎動が目まぐるしく始っていたからで、その煽りを受けての改変だった。また幕藩体制そのものもすでに総崩れが始まっていて、幕府の高級役人も藩大名達も席が暖まらず、不安に戦き、そのまた煽りをうける形で、尊之丞は慶應2年（1866）には陸軍奉行並支配にまで辞令の上では出世し、崩壊の幕府政治を必死で支えている。しかし翌慶應3年秋、幕府政治はついに終止符をうち、267年にわたるその幕を閉じた。尊之丞の夢もあえなく潰え去ったのである。彼の年齢69歳。下賤から武士たらんと志しただけに、その思いもまた複雑なものが湧き上がったろうと思う。

維新戦争が一応おさまつたあと、横浜の野毛に隠退した彼はその地に融貫塾というのを開き、子弟を教育するようになつた。甲州にも明治4年ころ帰省、半年ほど滞在したが再び横浜にもどり、明治8年（1875）秋東京で亡くなっている。享年77歳。墓は新宿区原町の専念寺にある。

# ボクの美術品観察日記4

ゴッホが描いた、2点の「ドービニーの庭」

山本 育夫

やまもと いくお  
詩人  
ミュージアム・マガジン・DOME（ドーム）編集長  
美術品観察学会主宰  
美術批評／展覧会批評誌「LR」編集長

ゴッホも同じ年、  
同じ絵を2枚描いていた

前回紹介したジャン・フランソワ・ミレーが、「種をまく人」を二枚描いたのが1850年。それから40年経った1890年の7月、ヴィンセント・ヴァン・ゴッホは、ミレーと同じバルビゾン派の画家ドービニーの家を訪ねている。ドービニーは美しい風景画を残しているが、この年にはすでに没していて、生前彼が住んでいた家や庭が残されていた。1890年の7月、ゴッホは「ドービニーの庭」を2枚描いているのだ（図版1、2参照）。良く見るといろいろ異なる点はあるが、全体的にはほぼ似たような構図。どうということのない風景画のように見える。しかし、この絵が描かれた1890年という年は、実はゴッホが自殺する前年なのである。そう思ってみるとこの二枚の絵、何やら日々のありそうな様子に見えてくるから不思議だ。そして、事実この絵にはなかなかいろいろな「曰く」があるのである。

## 不吉な黒衣の女性

背景の右端に描かれているのが、「オヴェールの教会」として有名なあの「教会」なのである。ゴッホはこの教会を実際に印象的に描いているが、ドービニーの家のすぐそばにあったことがわかる（図版3、4参照）。しかし、なんといってもこの絵を見つめていると気になりだすのが、庭の上方に立っている「黒衣の女性」であろう。ひろしま美術館のそれではもう一つ印象が薄いのだが、ヴァーセル美術館の方ではこの黒衣の女性が、自然に見る人の目に吸い込まれてくる。庭のカーブが目をそのように誘うのだ（図版5、6参照）。黄色い帽子をかぶった黒衣の女性。不吉な人物をゴッホは、ドービニーの庭に立たせている。そしてさらに不吉なのは、その人物の位置から視線をまっすぐに下に落としていくと、そこにちょうど庭を横切ろうとしている黒猫が描かれていることだ（図版7、8）。

## 消された黒猫の秘密

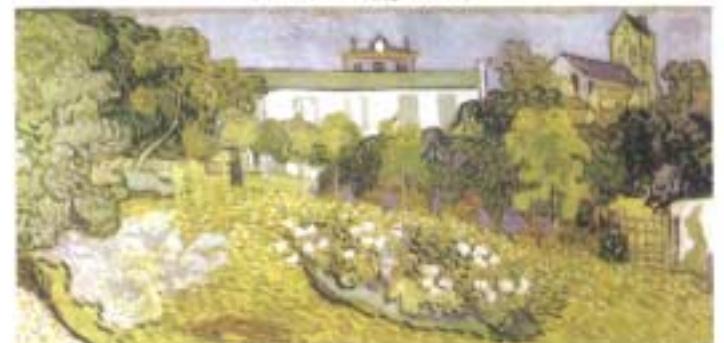
こちらを見ているかのような黒猫の

顔。猫好きのボクにはたまらない「ゴッホの猫」の登場である。ゴッホはほとんど猫を描いていない作家だから貴重な黒猫なのではあるが、しかし、ひろしまとヴァーセルの黒猫を見比べるとちょっとおかしいことに気づくであろう。そうなのだ、図版でおわかりいただけるかと思うが、実はこの黒猫、ひろしまの方はどういうわけか、かき消されているのである。いったい誰が描かれていた黒猫を消したのであろうか？調べはついている。実はひろしま美術館が所蔵している作品は、ある時期、あのナチスのアドルフ・ヒトラーの第一番の部下であったヘルマン・ゲーリングが持っていたことがあるのだ。そして、おそらくゲーリングが命じて不吉な黒猫を消させたのだという説がまことしやかに残されている。不吉だったのはナチス党率いるヒトラーとゲーリングの方であったことは言うまでもないのだが、歴史は時に不可解なことをしてかすものだ。

## 退廃藝術展

ご存知のように、ヒトラーとゲーリングは、あの忌まわしい「退廃藝術展」

ひろしま美術館所蔵  
「ドービニーの庭」1890年



図版1



図版2



図版3



図版4



図版5



図版6



図版7



図版8



図版9

を開いた張本人である。この展覧会は、ヒトラーが、当時ドイツの公立美術館が所蔵していた作品の中から、これはけしからん、退廃的だと思う作品を没収して、民衆の前にこれ見よがしに見せた展覧会なのだ。このゴッホの「ドービニーの庭」もまた、当時、ヒトラーに退廃芸術であると烙印を押された曰く付きの作品だったのである。

最後に気になるのが絵のサインだ。ひろしまのそれにはサインがないついていない。これはどうしたことなのだろう。また、ゴッホはなぜ二枚同じ構図の絵を描いたのであろうか？というわけで、この2枚の絵には、まだまだいろいろな疑問が隠されているのだが、紙面がつきた。あとは図版をよくご覧いただいて、お楽しみ下さい。さて、消されてしまったひろしまの黒猫くん、かわいそなのでボクの手で絵の中にもどしてあげることにしました（図版9参照）。めでたしめでたし。

ところで、美術品観察学会の方は、めでたく新年より雑誌へと「昇格」することになった。定期購読いただくなれば、会員になれるシステムである。どうぞ山梨の皆さんもどんどんと会員になっていただきたいと思う。

ヴァーセル美術館所蔵  
「ドービニーの庭」1890年

今年もめいっぱいオシャレしましょ  
ヘアスタイル メイク アクセサリー  
今年風にきめて さあ出掛けよう！



明けましておめでとうございます。昨年中は皆様にご愛読いただいて、感謝感激の極みです。今年もどうぞ、このトレンドのページをごひいきに！また1年間よろしくお願ひ申し上げます。

さてさて、昨年は皆さんにとってどんな年でした？いい事ありましたか。えっ、なになに、"×"って感じ？まあ過ぎてしまったことはバッと忘れて、新しい年の事を考えましょう。

そこで今回は「'97流行りもの」。女性は必読ですよ。もちろん男性の皆さんも、彼女や奥さん、友達との会話をはずませるためにもチェックして下さいね。

#### ●“すじ状茶髪”が今年風へア

やっぱり1番気になるのはヘアスタイルじゃないですか？このところ毎年毎年くるくる傾向が変わっていますものね。

流行語にもなった「茶髪」は、今や、おじさんでも知っているほど世間に浸透していますが、今年も「茶髪」は健在です。ただ、全体に茶色にするのではなく、アクセントで部分的に“すじ状”に入れるのがポイント。もう、安室ちゃんはじめ、小室ファミリーの何人かがやっていますよね。

入れる色は、今年はチョコレート色。でも基本的には、自分の肌の色や目の色に合わせて下さい。依然としてオレンジ系や赤系もOKだけど、ブルー系やグレー

ン系も新鮮。光があたって、かすかに色が分かるくらいがグッド。

カットも相変わらず、レイヤーやシャギーが流行ります。長さはミディアムが今年風です。



やっぱり気になる「流行りもの」

#### ●細身のシルエットに 光もの系のシャツ

続いてオフィススタイル。あまり派手でケバケバしいものや、過激なデザインはいけませんが、少しは流行を取り入れたいもの。

手はじめに、シルエットから見直したらどうでしょう。もちろん今年も細身。ウエストをギュッと絞ったジャケットに、

細めのベルトをカッチリ締めればOK。スカートもクラシカルな台形に。ツイードや千鳥格子などの、素材や柄だともっとグッドですよ。

色は茶色。全体を茶系でまとめるのもよし、靴やスカーフ、ベルトなどの小物から入るのもよし。モダンな感じに仕上がります。

忘れてならないのが“光もの”。「えっ、難しいんじゃないの？」なんて声が聞こえてきそうですが、大丈夫。シンプルなものをお選び下さい。絶対失敗はありませんから。ベーシックな色の光もののシャツを着るだけで、何年も着たスーツが見違えるほどオシャレ。サテンやペロアなど、リーズナブルなシャツから始めてみましょう。

メイクはバール復活の兆し。目元と唇に使います。目元は、ハデハデしく目ぶたにつけるのではなく、目の間にスッキリ入れるのが今年流。ホワイトやゴールドがオススメです。口紅は、グロスやパールを上手に使って、立体感をつくります。ベタッとしたマットな唇は、もうハヤラナイ、ハヤラナイ。

アクセサリーも、ゴールド人気が復活。ただし今年は、シルバーやベッ甲、バールと重ねて使うのがオシャレです。よりシックに、より知的に、ね。

今年1年どんな年になるのでしょうか。流行りものをしっかりチェックして、ステキな1年にして下さいね。

#### こんなところに山梨 思ひがけない場面で ふるさと再発見

赤穂浪士の大石内蔵助ほか46人が切腹をしたのは、元禄16年(1703)の2月4日のことである。吉良上野介邸を襲い、主君の仇討ちを果たしたのはその前年の12月15日のことであり、その間、幕府の処分を待って丁重な扱いを受けていた。仇討ちは快挙とされ47人は義士として讃えられた。幕府が迷い、処分が遅れたのもそのせいである。

しかし、死を覚悟の上のぞんだ討ち入りだったが、切腹を申し渡されるまでが長過ぎたために、浪士の胸にはごくごく人間的な感情が揺らぎはじめていた。このことを推測させてくれるのが、2月4日の切腹である。切腹は、脇差を腹へ立て自ら喉をかき切るものだが、一般には

介錯人がいて首を打つ。さて、記録によると、この日の切腹の所要時間はたいへん短く、一人当たり12分たらずである。一人一人を呼び出し、切腹させ、死体を片付け、また次の者を呼び出してと進行していく

#### 赤穂浪士の美談の陰で 生きることを選択 甲府・能成寺に眠る 大野九郎兵衛の無念

ば、かなりの時間を要するはずだ。時間が早まったのは47人のうちの何人かに、介錯を怠がなければならぬ理由が生じたからだ。呼び出してすぐ首をはねられた者もいたのである。

さて、赤穂浪士の美談の陰で、唯一、悪役にされているのが、赤穂の

重臣だった大野九郎兵衛である。算盤の人間で、藩の財政に尽力し、大石内蔵助よりも評価を高めていた人物だった。しかし、討ち入りに参加しなかったことで、この算盤の人間は、死よりも生きるという、ただ普通の選択をしたのにもかかわらず、気の毒にも「算盤高い」という悪役にまわってしまったことになった。

大野九郎兵衛は、ひとり甲州は愛宕山東の能成寺で暮らしたという。何も世間に弁明することもせず、ひっそりと、自分の考える武士の道を選んだのだということもできる。甚ばかり打って過ごしたといい、能成寺には墓があり「死する期（ご）は白黒とてもわからぬどかの岸にてはうたん渡り手」の辞世の石碑もある。老人が大野九郎兵衛であるとわかったのは、死後1ヶ月、一人の武士が訪ねてきて、石碑を建て、手厚く回向したことによるという。(石)

参考資料：三田村秀魚「赤穂義士」  
章には「アフリカの幸福というものは、しばしば自分の正確な年齢も知らない、ということに起因している。だから死は永遠に遠い向こうにある。皆が字が読めて、出生届けなどという制度があり、平均寿命などという知識があるから、死期を予感したり、医学的予後を悲観したりする。死の予感が死ぬまでの日々を立派にする人もいるが、惨めな恐怖に脅える人も出る」とある。

自分の心臓に手をあて、機械仕掛けではないということを確かめさせてくれる批評に満ちた内容だ。自分が本当に言いたいこと、聞きたいことが導き出されてくる。(川)

## Book

### 自分のまなざしを大切にしたい 「近ごろ好きな言葉」

曾野綾子 著



本当のことを話したい。本当のことを聞きたい。と思う。新聞やテレビで聞き慣れたことではなく、私の、そして、あなたの、をである。しかし、毎日の人間関係は、暮らしを取り囲む機械仕掛けそのままに、機能的で、合理的である。スイッチを押し間違えないように、故障しないようにということが優先される。だが、それでは、当の人間の方が故障してしまう。社会全体が壊れてしまう。

本書は、ひとりの作家の眼をとおした人間観察であり、独自の声の聞こえるエッセイ集である。アフリカの地方の素朴な生活の中に入間の生活の原点を見る「偉大な牧師としてのアフリカ」という文

会いたい人から 会いたい人へ  
知りたいことから 知りたいことへ  
リレーでつなぐエッセイ

# 「夜の街」



依田 利恵子

よだ りえこ  
「いろは恋」会員

私は、夜の街が好きである。ネオンが輝き昼間より明るいストリート、その明るさの隣に寄りそう暗やみ。少しばかりうさんくさい華やかな夜の街は、人の心を沸き立たせる。それに誘われたように多くの人々が、どこからか集まつてくる。お酒が回り、ハイな気分で騒ぎ立てているグループや何を話しても嬉しいしようがない若いカップル、占いの小さな卓を出している着物姿のおばさん。

今は、同じ時間と空間を共有しているけれど、人それぞれに過去があり、それぞれに明日がある。ちょっと覗いてみたい気はするけれど、私はあくまでも私で、私以外の人生は決して見ることはできない。そんなことをちらと感じながら、今という二度とない時を有意義なものとするため、楽しさ增幅装置のスイッチを押す。今夜は楽しむために来たんだから。

以上のお話は、“私は、夜の街が好きである”というフレーズの真に意図するところでは、実はありません。もちろん、決して夜のネオンが嫌いという訳ではありませんが。

私は、夜の街を一人そぞろ歩くのが好きである。

日中のせわしい空気は、日が落ちるにつれ消え失せ、街も人もゆっくりと落ち着きを取り戻す、そんな時間。一人ぼんやり歩いていると、どこからか金木犀の香りが流れてくる。あわてて、あたりを見回してみると、思わずそこには金色の花が、はうっと浮かんでるのを見つけ、びっくりすることもあるが、捜しあてられないこともある。

同じ匂いでも、少々趣を異にするが、夕飯時の油と甘じよっぽさの混ざり合った、肉じゃが系の匂いも、子供のころ、“これがうちの晩ご飯だったらしいな”と思ったことを思い出し、なつかしさで気持ちがほんわか暖かくなる。

夜の街はまた、耳にも心地よい刺激を与えてくれる。

地面から沸き上がって、私の全身を包み込む虫の声のステレオ放送。ひんやりした空気にしみわたる。澄んだその声はそぞろ歩く私の気配を知つてか知らずか、鳴き続ける。

“静かな夜だな—”

静けさを演出するものとしては、

やはりかかるの声を忘れる事はできない。それ以外の音を打ち消してしまうほどボリュームの大きいかかるの声が、静けさを感じさせ、心を落ち着かせるのだから不思議である。

わずかな風に乗つてくる水臭いたんぽの匂いとかかるの合唱の複合剤は、私の夏の夜の睡眠薬である。

こうやって、いろいろ書き挙げてみると、耳や鼻から入つてくるものは何かしら特別な感情・思い出とともになっていることに気づかされる。

なつかしさ、静けさ、子供の頃の思い出、それから季節の移り変り。これらの純化されたものが、バブロフの犬のように、心に沸き上がってくる。では、目から入つてくるものはどうだろうか。

“百聞は一見にしかず”というが目からは溢れんばかりの情報が飛び込んでくる。飛び込んでくるが、その内のいくつが心に届いているだろうか。見えるということを感じるということは、決して同じではないのだ。

耳や鼻は、目よりハートに近いのかもしれない。

## 「陸運会社規則」の立案者 初代駅通正 杉浦譲は甲府の出身

### 甲府通運前史を訪ねる（5）

<甲府通運のページ>

林 陽一郎

はやし よういちろう  
山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当



譲が二度目の渡欧の際にパリで撮った

**天**保6年（1835）9月25日、甲府西青沼二十人町（現在相生1、2丁目）の甲府勤番組屋敷杉浦家に男子が誕生し、昌太郎と名付けられた。これが明治4年（1871）に日本郵便がはじまったときの最高責任者である駅通正杉浦譲の誕生である。以下譲の履歴をたどると、父愛蔵（後に七郎右衛門を襲名、昌太郎は愛蔵を襲名する）は甲府勤番同心（今の警察一例えれば銭形平次の上役）という身分であった。杉浦家の長男であった譲は11才で徳川館に入学、成績優秀のため同館給仕（助手）となり、順次昇進して20才には教授方手伝（助教授）となった。26才に田宮流剣道師範免許を受けて道場を開いたというから文武両道にすぐれた若者であった。またこの年には杉浦家代々の勤め役である町方御用役も勤めている。文久元年（1861）譲27才のとき江戸出府の命をうけ、外國奉行支配書物御用出役となる。これは徳川館の師であった田辺太一の推薦によるものといわれているが、町方役人の家柄からの異類の出世は如何に譲が優秀な役人であったかを物語るものである。29才には外國

奉行池田筑後守の隨員としてパリに出張、さらに慶應2年（1866）にはパリ万国博覧会使節としての水戸徳川昭武に随行して再度パリに出張している。翌年帰国、間もなく明治維新となる。

譲は徳川家十六代家達に随つて静岡へ移り、静岡学問所で教授となつたが明治3年（1870）には新政府に出仕することとなって再び東京に移る。譲が36才のことである。この年譲は駅通権正（今の郵政次官、ただし上役がいなかつたので彼が最高責任者）、で新式郵便実施の諸計画をたて、地理権正を兼務、さらに大政官制度取調御用掛をも兼ね、その上富岡操糸機械取建委員にも任命されるという多忙な年であった。翌4年に郵便が創業され、5年には富岡製糸場が開業し、譲が原案を作成した「戸籍法」も壬申戸籍として実施された。このように有能なる明治政府の一員として活躍した譲であったが、明治10年（1877）、持病の気管支炎で8月22日に逝去、43才の若さであった。

さて、この譲と陸運の関係であるが、彼が郵便制度を実施するに際して、從来からの飛脚や宿場の運送開

&lt;トヨタビスタ山梨のページ&gt;

優れた足回りとおしゃれなボディーがお気に入り  
アリストを乗り続けている社長が断言  
「もう他の車には乗りたくない」

**ヤマナシケンソー株式会社**

土木資材全般の卸・リースを行っている。事務所に隣接する資材置き場には、ガードレールやフェンス、仮設用のバリケード、信号機などが所狭しと置かれている。まるで工事現場のようだ。

「これらの資材を運ぶのに、ハイエースが活躍してくれています」と話す天野弘社長。3年前から使用している3台のハイエースは、現場へと毎日建設資材を積んでフル活動。



事務の社員の方も、混雑する街中でも小回りがきくターセルを愛用している。

「トヨタビスタさんとは、オープン以来のお付き合い」と言う天野社長。これまでに、社長用としてクレスタ4台、アリスト3台を購入している。初代アリストは甲府で2台目に納車されたものだという。3台目にあたるシルバーメタリックの現アリストは、昨年11月に購入。ピカピカの新車だ。

「乗り心地は抜群ですよ。以前乗っ

ていたアリストを友人に譲ったのですが、友人もとても気に入っています。他社の車と乗り比べるとすぐに分かるんですが、足回りが全く違うんです。キビキビしていて気持ちがいいですよ。デザインもオシャレですし」と天野社長。

このアリスト、ビジネスとプライベート両面でさまざまな活躍している。プライベートでは、奥さんと娘さんを乗せてドライブへ。ビジネスでは、商談や営業、仕事関係者とのゴルフなどと守備範囲は広い。「ゴルフは仕事も兼ねた趣味かな」と笑うが、なかなかの腕前。「ゴルフ場までかなりの距離を運転しますが、疲れを感じませんね。長距離運転にも、もってこいの車ですよ」。天野社長は、3年間で約6万キロを走るそうだ。「アリストに乗ったら、もう他の車には乗りたくないかもしれませんよ(笑)」と言う。

仕事がら、これから年度末にかけて1年で一番忙しい時期を迎える。3台のハイエース、ターセル、アリストとも大活躍に違いない。

〒400-01  
中巨摩郡竜王町竜王1435-15  
TEL 0552-79-2251

&lt;トヨタホーム山梨のページ&gt;

山梨初の3階建て完全二世帯住宅  
主婦の工夫と気遣いで 将来は  
自立型三世帯同居住宅に変身します



赤尾博志さん宅 (甲府市)

今回紹介する赤尾さん宅は、トヨタホームの3階建て「エスパシオEL3」。山梨県内では初めて建てられた。モダンな外観、スリムなシルエット、エレベーター付きの、憧れの3階建て住宅だ。「以前住んでいた家が老朽化してきたので、思い切って新築しました」とご主人の赤尾博志さん。昨年5月末に完成し、6月から奥さんの米子さんと長女の真理さんの家族3人で暮らしている。

赤尾さんは甲府の中心街にある駐車場「かど柳」の取締役社長。多忙な赤尾さんに代わって、家の設計、施工の細かい点は米子さんが担当した。

「家に一番長くいるのは主婦でもの」と米子さんは笑う。主婦ならではの工夫の数々を伺ってみる。

「まず、うちは完全二世帯住宅なんです」。なるほど玄関が2つある。1Fと2Fは赤尾さん夫妻と真理さんが使用。3Fは現在別居している長男が、結婚して同居する時のことを考えてのスペースだ。「息子夫婦の玄関からエレベーターでストレートに3Fに行けるようになっているんです。お嫁さんに気を遣わせるのはかわいそう。マンションみたいな感覚で住んでくれればと思って」。母として、姑としての気遣いが痛いほど感じられる。

また、1Fも現在は別居している赤尾さんのお母さんが将来同居することを考え、バス、トイレ、ミニキッチンを備えている。こちらは嫁としての気遣い。「こちらも見て!」という声で、2Fの勝手口にいくと、外から上がってこれる階段がある。「近所の奥様方に大評判なの。わざわざ玄関から入ってこなくても、気軽にお茶を飲みにこれるって」とニコニコ顔。これは主婦としての気遣いだ。

家を建てるにあたって、本や雑誌で熱心に研究した米子さん。トヨタホームの担当者と何度も打ち合わせを重ねた。「トヨタホームさんにしてよかった。住んでみて今日まで不満な点はどこもありません。質の高い断熱材のお陰で、夏涼しくて冬暖かい。地震にも強いですね。あまり揺れを感じませんもの。安全面でも安心しています」。

家の中には、おしゃれなインテリア雑貨が目立つ。米子さんが海外旅行先からお土産で買ってきたものや、手作りの小物だそうだ。「リビングのカーテンも私の手作り」と笑う米子さん。息子さんのお嫁さんが待ち遠しいですね。



# 新しい年にあらたな飛躍

「やまなし」発展のために……早野グループ



## 「早野グループ」

- 株式会社 早野組 〒400甲府市東光寺1-4-10 ☎0552-35-1111 営0552-35-1109
- トヨタビスタ山梨(株) 〒400甲府市朝氣3-10-21 ☎0552-32-5511 営0552-32-5507
- トヨタホーム山梨(株) 〒409-38中巨摩郡昭和町河西1043 ☎0552-75-1234 営0552-75-7806
- 甲府通運株式会社 〒409-38中巨摩郡田富町流通園地3329-1 ☎0552-73-0611 営0552-73-9332
- 丸二ビル株式会社 〒400甲府市丸の内2-4-7 ☎0552-22-1553 営0552-22-1554

## ときのひと・FACE

人を結ぶ地域と結ぶ  
知ってほしい心の交流スポット

<早野グループのページ>

「勝つ喜びを体で感じてもらいたい」  
子ども達のプレーを見つめて16年  
強気のサッカーで頂点を目指す

少年サッカーチームのコーチを長年務める

甲府通運株式会社 広瀬 敬さん（甲府市）59歳

### がんばる姿に感動、サッカー界へ

山梨県下でも実力上位の“山城サッカースポーツ少年団”のコーチを16年間務めている。「息子2人がこのチームに入ってましてね。試合の応援をしているうちに、子ども達の時間いっぱい一生懸命走り回る姿に感動して」コーチの道へ。サッカーの経験はまったくなかった広瀬さん。本を読み、必死で勉強をして、昭和55年に4級審判の資格を取得了。

以来、山城スポ少のコーチとして休む暇もなくがんばっている。現在は小学校1、2、3年生を担当。サッカーの技術というより、ボールに慣れることを目的としている。「ボールの扱いや体力づくりなど、基本的なことを教えています。最近の子ども達は、昔に比べるとずいぶん上手になりましたね。テレビでJリーグの試合なんかも熱心に見ていますよ」と広瀬さん。子ども達の間でもJリーグ人気は非常に高くて、「ス

ポーツするならサッカー」という雰囲気だそうだ。甲府市内でも、クラブチームを含めると、30チーム近くになる。その中で山城スポ少は、岡島杯、YBS杯など年に何回かある大会で優秀な成績を修めている。



サッカーへの熱意は子ども達にも負けない

### 勝つ喜びを教えたい…

練習は週3回、水、土、日曜日の朝5:30~7:00。冬などは真っ暗中の練習となる。「今は農作業用の灯光機を使っていますが、昔はグラウンドに車を何台も並べて、そのライトを照らして練習しました。長い間には、父兄と一緒に苦労や工夫をい

っぱいしましたよ。真冬の練習は本当につらいけれど、ひと冬越すことできたら、たいがいその後はずっと続きますね」

山城スポ少は25年も続く伝統のあるチームだ。OB達もさまざまな分野で数多く活躍している。JFLヴァンフォーレ甲府で活躍している石原大助選手もその一人。「時々グラウンドに来て、子ども達の練習を見てくれます。子ども達もとても喜んでね、いろいろ質問してますよ」と広瀬さんは日焼けした顔をほころばせて話す。

配達、集配が仕事の広瀬さん。水曜日は練習と仕事が重なるが、子ども達に負けじとばかりにがんばっている。ここ数年無事故、有給休暇もほとんどとらず、勤勉な勤務態度には定評がある。

「試合をするからには勝ちたい。子ども達にも勝つ喜び、感動を味わせてあげたいですね」と広瀬さん。今後も、未来のJリーガー達を育てていってくださいね。

おしゃれ

IWAMATSU



営業時間 9:00~19:00  
定休日 日曜日  
所在地 甲府市丸の内1-19-8  
TEL 0552-32-5577



ヨーロッパティストの高級オーダースーツ  
仕立ての良さ 布地の良さが自慢です

高級オーダースーツの老舗。先代が終戦直後に開店して以来、多くの紳士達から愛され続けている。明るく落ち着いた雰囲気の店内、ディスプレイされている数々の布地と同じく、気品が漂う。店の奥では、ベテランの職人さんが布を裁っている。

ダンヒルやアクアスキュータム、ランバンなど、イギリスやフランス、イタリア、ドイツなどのヨーロッパブランドを中心とした品揃えだ。スーツのオーダーが主流だが、ブレザーやスラックス、Yシャツのオーダーもできる。二代目の岩松良泰社長は「長く着ていただけるように、良い布地、良い仕立てを常に心がけています。もちろんオーダーですから、最初に袖を通した時からお客様の体になじみます。ご自分用ばかりでなく、ご贈答用に使われるお客様もいらっしゃいますね。最近では結納返しにされる方もいらっしゃいますよ」と話す。スーツ一着は20日前後で仕上がる。あなたもオリジナルスーツを作ってみてはいかが?

たべる  
北海道楽



「知の素材で一杯」が気軽に楽しめる

営業時間 11:00~2:00(ランチタイム)  
5:00~0:00(オーダーストップ11:30)  
定休日 なし  
所在地 甲府市住吉本町1195-1  
TEL 0552-26-6335



海がなくても魚介類はいつもフレッシュ  
産地直送を誇る 粋な刺身居酒屋

昨年9月にオープン以来、店内はいつも活気あふれる声で満ちている。人気の秘密は、新鮮な魚介類が低価格で味わえるところ。素材はすべて北海道から直送と、イキの良さにはこだわっている。国道20号線沿いに並ぶ同じグループの「焼肉宮」「ステーキ宮」同様、明るく入りやすい雰囲気が好評だ。

「夜も家族連れで利用される方が多いですね」と店長の町井さん。レストランのような感覚で楽しめる場所として定着しつつある。「季節によって旬の特別メニューも用意します」とのことだが、この時季のイチ押しさはやはり刺身。うに丼やいくら丼など丼物のファンも多い。新年会を、と考えているなら飲み放題の鍋コースがおすすめ。豊富な種類の中から好きな鍋を選ぶことができる。最大96名まで収容できる座敷もあり、団体の宴会にはもってこい。もちろん一人でも、女性だけのグループでも安心。定食がお手頃価格(~880円)のランチタイムも忘れない。

お茶の間の民俗学 (2)

## 一年中行事の習俗とその心

- ・節分
- ・立春
- ・桃の節句

志摩 阿木夫 民俗学研究者  
しも あきお

### 節分から立春へ

暦を見ると2月4日に「立春」という文字が見えてくると、「ああ、いよいよ春だ」と心が騒ぐと同時に活気が蘇ってくる。

その立春の前日が「節分」である。昔の人はこの節分のことを「お年取り」といっていたが、それにはそれだけの理由があった。

今、私どもが使っている太陽暦という暦は、明治6年(1873)に採用されたもので、それまで使っていた暦を現在では旧暦(太陰暦)と呼んでいる。その旧暦では立春が年の始めとなっていたので、立春が正月ならば、その前日は大晦日(おおみそか)になるので、昔の人が節分を「お年取り」といったのは当然のことである。

ところでその節分だが、そのような意味から、旧い年と新しい年の「節を分ける」というところから名付けられたもので、その日の夜は「豆まき」が行われ今日まで続いている。それは、平安時代に宫廷で催された「追儺の儀式」が民間に伝えられたもので、新しい年を清く迎えるため、人びとの心身にまつわり付いている邪氣をことごとく浄化する必要上、豆

に穢れを託して追放するという呪術が、その「豆まき」の大きな目的である。

またこの日、家々では門口に鶴の頭を焼き、それを桜の枝に刺して飾る習俗がある。これはせっかく追い出した邪気が再び家の中に侵入し



ないようにと、邪気に見せしめる呪術である。邪気といつても目に見えるものではないから、実感の湧くようないい匂いで邪氣を払う呪術として用いられ、この行事が女の子の成長を願うことになったのは、将来他家へ嫁ぐ女の子に、この節句を機に花嫁教育をしたことに始まったものである。現在のような華やかなひな飾りが行われるようになったのは、江戸時代中期以降のことである。

古い形式のひな祭りの伝統は、現在でも島根県などに残されている「流しひな」に見ることができる。ともあれ、この季節になると農耕は、いよいよ活気を見せるようになる。

### 桃の節句に寄せた心

旧暦の3月3日は桃の節句である。江戸時代の中頃までは「上巳の節句」と呼んで、3月の最初の「巳の日」に行われた。それが3月3日となったのは、徳川五代将軍綱吉の時代以降のことである。

民間での桃の節句はというと、この頃は農耕の神様が山から里に降りてくる時期で、その神様を迎えるため、形代(人形)を切って心身を撫でて净化をし、これを川に流したことから、その形代が後に雛人形になったものであった。

桃の花はその強い匂いで邪氣を払う呪術として用いられ、この行事が女の子の成長を願うことになったのは、将来他家へ嫁ぐ女の子に、この節句を機に花嫁教育をしたことに始まったものである。現在のような華やかなひな飾りが行われるようになったのは、江戸時代中期以降のことである。

古い形式のひな祭りの伝統は、現在でも島根県などに残されている「流しひな」に見ることができる。ともあれ、この季節になると農耕は、いよいよ活気を見せるようになる。

## 某月某日

テレビに新聞 雑誌 はたまたDMにと  
年末を迎える段と情報過多となっている  
その大半が東京からの発信  
形だけでなく『××マインド』にこだわった生き方とは…

- ・地方の時代の情報発信
- ・センスの問われるギフト選び



×月×日

光ファイバー網の整備によって、さまざまな情報が全国どこにいても瞬時に、また多角的に入手することができる情報インフラの整備—マルチメディア時代の到来ーが呼ばれている。そこでは、地方にいるデメリットが解消されるのではないかと期待されている。果たして、地方の時代、地方からの情報発信の切り札となるのだろうか。

いくら情報網が整備されても都市との格差は是正されないという意見も見受けられる。その根拠となっているのは、新幹線や高速道路などの高速交通体系が整備された時と同じ。かえって東京の一極集中が加速したという論理。そうなるのだろうか。

これは、交通体系全てが東京中心に整備され、東京が一番恩恵を受けたのだから、言わば必然であった。しかし、地域間を結ぶネットワークが完成すれば、格差は是正されることがとなるはずだ。

その情報網の整備だが、これは交通網以上に個々の企業や各家庭まで

のネットが必要となる。また、現状では大容量の情報を瞬時に伝える通信手段は確立していない。これでは企業の本社の集中する東京にいったん情報を集約し、そこから発信するしかすべがない。ところが、光ファイバー網が広がれば、大容量の情報を双方向で交信できる。従来取れなかった方法が日常的に可能となる。

しかし、そこに載せる情報自体の価値が、魅力ある必要なものではなくては、形だけのものとなり、利用が可能であっても、使われなくなる。地方の時代は、如何に付加価値情報を提供できるかにかかっている。

×月×日

年末、年始など贈答に何かと頭を悩ますこの頃。そこで、心ある品選びを考えてみた。

簡単に言ってしまえば、言葉だけでは伝え切れない思いを贈り物に込めて贈る、ということ。しかし、贈る相手のことが良く分かっていないと、一般的な平凡なものとなってしまい、困ることとなる。その揚げ句、

無難というか、平均点にしかならないものを選んでしまう。

これが、ビジネスの関係なら「出来るだけ密度の濃いものを選びたい」との思いが募るが、相手の顔が見えないことが多い。日頃、個人的なつき合いを深く、濃くしているわけではないのだから、なおさら。良い意味で自分流にこだわってみると、個性がでてくると同時に、上手くいけば喜ばれることとなるのだが…。

チラシにパンフレット等、情報があふれ返って、今は情報過多となっている。季節的なものそれとも定番、…。そんな情報を鵜呑みにするよりも、経験不足もあるが、時間を掛け自分流にこだわって、贈られた方がニヤッとするようなものを選べたら楽しい。

贈り主の好みが見透かされる品選び。決して珍品とか、高価なものとかでなくても、非常に気を使って選んだことが伝われば…。これは、センスでなく心の範疇のこと。大切な方へ、あなたはどのようにして選びましたか。

[文：新海 級]